



OCTOBER



『月のケーキ』 ジョーン・エイキン著 三辺律子訳 東京創元社 2020年

秋は月の綺麗な季節です。今月は「月」をタイトルに冠した、英国の児童文学作家ジョーン・エイキンによる『月のケーキ』をご紹介します。

ジョーン・エイキンの作品は、これまで『しずくの首飾り』しか読んだことがありませんでした。この『月のケーキ』は、表紙デザインが幻想的で優雅なところに魅かれて手に取りました。この本には、13作の短編が収められています。

表題作の『月のケーキ』は…主人公のトムは、数ヶ月を祖父のうちに過ごすことになり、そこで“月のケーキ”を作ることになってしまいます。“月のケーキ”を作る材料は、桃、ブランディ、クリーム、タツノオトシゴ、グリーングラスツリー・カタツムリです。気味が悪そうな物も入っています。月の満ちる夜に作って月が完全に見えなくなった夜に食べなくてはいけない、という決まりまであります。トムは、怪しげな村の住人ミセス・リーから、材料の一つの、聞いたことがない“グリーングラスツリー・カタツムリ”を13匹も探しに来よう、命じられます。そもそもこのケーキは何のために作るのでしょうか・・・

全作品に共通して、不穏な雰囲気漂っていて異世界へ通じているような感覚に陥ります。児童文学ではありますが、大変読み応えがあるファンタジーです。秋の夜長の読書にもぴったりではないでしょうか。

ジョーン・エイキン イギリスの児童文学作家

『ささやき山の秘密』1969年カーディアン賞受賞

『暗闇にうかぶ顔』1972年エドガー賞（ジュブナイル部門）受賞

『ウィロビー館のオオカミ』『ナンタケットの野鳥』『かっこうの木』『しずくの首飾り』ほか